



出展者も来訪者も楽しい！自宅を開放したアート展
「五月が丘まるごと展示会」

期間を決めて自宅を開放し、絵画や陶芸、手づくりアクセサリーの展示、花やハーブの庭の紹介、コンサートや上映会等を開催し、団地内をめぐる展示会。

団地内外の人が交流するきっかけになればと平成19年に始め、毎年、出展者、来訪者ともに増加している。実行委員会のメンバーは、団塊世代の女性を中心に。

- 内 容 自宅のリビングや庭等を開放
 - ・絵画、陶芸、アクセサリー、手芸、雑貨等の展示
 - ・バラ、山野草、ハーブ等のガーデニング紹介
 - ・コンサート、上映会、カフェ 等
- 実 施 日 毎年5月1日～3日
- 場 所 五月が丘団地の住民宅（35軒・平成26年）
- 参 加 者 約1,000人（平成26年）
- 開始時期 平成19年5月
- 実施主体 五月が丘まるごと展示会実行委員会



取組のステップ



団地に若い時のように感動できる場所を作りたい

まると展示会の発起人2人は、前から月1回、自宅を開放して陶芸や彫金の作品を展示していた。また、他にも数軒、自宅の庭等を開放している人がいた。

「年をとっても心は現役でいたい。団地に若い時のように感動できる場所を作りたい」、「人が交流するきっかけになれば」と考えていた2人は、この取組をイベントとして立ち上げることにした。

「五月が丘まると展示会」スタート

最初は、口コミで出展者を募り、16軒が参加した。イベントは地域でも話題になり、年々、数が増えた。また、これぞという家には、メンバーが訪問して家族に願うことも。自宅を開放するには、“家族の理解と協力が不可欠”というのがこの取組のポイントでもある。

来訪者は1,000人に

第8回となる平成26年は35軒が参加。来訪者は1,000人を超える。

内容も、絵画、陶芸等の展示、ガーデニング紹介、コンサート、上映会、カフェと様々だ。団地内外から多くの人が訪れ、まち歩きマップを手にしそうに巡っている。



メンバーは団塊世代の女性 ネットワークを大事にしている

男性のサポートもあるが、企画・運営はほとんどが女性。13人の実行委員は、イベントが近づく、地域の集会所に集まって企画を練る。おしゃべりからいろいろなアイデアが生まれる。



工夫していること



参加費やバザーの売り上げを運営資金に

展示会の出展者から3,000円を会費として徴収するほか、11月にバザーを開催し、売り上げを運営資金に充てている。

また、団地内外の商店などから協賛金を募っている。

展示を見て回る巡回バスを運行（第8回）

展示会は団地全体で開催することから、バザーの資金等を活用して、乗り降り自由の無料巡回バスを始めた。来訪者に変好評である。

常時開放してPR

出展者の増加とともに、常時自宅を開放する人も増えた。

現在、約10軒が年間を通して、ギャラリー展示やガーデニング紹介などを行っており、PRにつながっている。



集会所も活用

ハワイアン歌謡コンサートやフルートミニコンサート等の演奏には、団地内の集会所を活用している。

また、公民館の協力も得ている。



エピソード



- ・ 開催日が近づくと、近所の人でも自宅の前を花で飾るなどの光景が見られるようになった。
- ・ イベントの開催に向けて多くの人が協力しあうことで、普段から声を掛け合う機会が増えた。



■ 課題・今後の展開 ■

- ・メンバーが高齢化しているので、若い人たちにも参加してもらおう。
- ・出展者をもっと増やす。



みんなの声



〈来訪者〉

- ・団地内でこんなイベントをやっているとは意外だった。面白い。
- ・プロ級の作品から趣味で作っているものまで幅広くあるので見ていて楽しい。
- ・まるごと展示会を参考に、自分が住んでいる地域でも何か始めてみたい。
- ・出展者がとても楽しそうなのが印象的だった。

〈主催者〉

- ・テレビや新聞などで取り上げられ、団地内外から訪れる人が増えた。無理をしないで、できるところから始めて、今ようになった。
- ・これからも、まるごと展示会を通して団地の魅力を発掘し、多くの人に伝えたい。
- ・出展者と来訪者、来訪者同士の触れ合いに、人と人のつながりを感じる。

